

学級担任のまなざし 45

Okayama Prefectural Education Center

R2.8.26[Wed]

「目安を示す」

前年度担任していた子どもが、休み時間、教室にいた私を訪ねてきました。「先生、私、今日初めて50メートル、泳げました！」満面の笑みです。「おめでとう！よかったね！」心からの喜びを伝えました。

前年の夏、彼女は水泳のめあてをこう綴っていました。「クロールで50メートル泳げるようになる」まわりの友達が次々と泳げるようになって、「早く自分も」という気持ちと「無理かもしれない」という気持ちが交錯しているようでした。練習が始まり、順調に30メートルくらいまでは泳げますが、その後、なかなか伸びない日が続きました。泳ぐコツを精一杯指導しましたが、泳いでも泳いでも、なかなか50メートルまで行かないのです。

ある日彼女に「昔から100回の努力という言葉があります。100回を目安に練習すればできるようになるという意味です。一つの目安として取り組んでみてはどうですか。」と話しました。彼女は、これまでに数十回練習していることを確認し、引き続き、まず5回、次の5回…、と5回ずつ練習を重ねたそうです。そして、とうとう50メートル泳げたというのです。100回までいく前に目標を達成したと話してくれました。

「100回の努力」は子どもたちを励ます言葉の一つであって、「必ず達成できる」というものではありません。また、子どもたちの中には、意欲があっても努力が続けられない子どももいます。子どもたち一人一人をよく見極め、その子に合った励ましを粘り強く続けることが大切です。いずれにしても、教員が諦めてはいけません。